

編集後記



今年も桜の散る年度替わりの季節になりました。早いもので中部地質調査業協会の協会誌である『土と岩』も64号の発刊を迎えました。今年も皆様のご期待に応えるべく、編集委員会では顔を突き合わせながら、様々な企画を立ててみました。手前味噌で恐縮ですが、皆様のお役に立てる協会誌に近づいたのではと自負しております。ご一読いただければ幸いです。

さて、2015年はあの忌まわしい東日本大震災から5年が経過しました。岩手県、宮城県では復興の槌音がやっと高鳴ってきましたが、原発事故のあった福島県では大幅に遅れているのが実情で、その中で我々業界の仲間たちが必死に働いている姿を見ると頭が下がる思いがいたします。

一方、経済情勢はアベノミクスで一時的に回復基調が見られましたが、世の中は石油価格の暴落や中国経済の不安定化の影響で予断を許さない状況となっています。しかしながら、こと中部圏におきましては、世界のトヨタさんを代表に産業界は堅調な推移にあることと、豊田市までの新東名の開通により流通業の動きが飛躍的に向上してきたこと、さらにはリニア新幹線建設の本格化や三遠南信自動車道や伊豆縦貫自動車道の整備が進んできており、昨年策定された国土形成計画の目玉ともいえるスーパーメガリージョン構想が動き始めていることを実感できるようになってきました。

この意味で、様々な社会インフラ建設や老朽化した巨大インフラの維持更新、津波・地震・台風等の巨大災害に関わる地盤リスクや構造物リスク、様々な防災リスクの対応を得意とする我々中部地質調査業協会の役割は大変重要で、これまで以上に協会員が団結し、切磋琢磨していく必要があると感じています。

このような状況を踏まえ、64号の目玉となる特集に『火山』を取り上げました。東日本大震災以降、活発化してき

た火山に焦点を当てることで、地質技術をコア技術の一つとしている協会員の技術啓発と読者の皆様の火山知見の向上を目指しています。

一方、今年も中部圏の防災研究施設紹介として名古屋工業大学の高度防災工学センターを紹介するとともに、濃尾平野の研究論文を掲載しました。また、所管官庁である国土交通省中部地方整備局との意見交換の内容も取りまとめましたので、参考にしていただければと思います。さらには、昨年、10年ぶりに名古屋で開催された全地連「技術フォーラム2015」を小特集としてまとめています。

以上、1年に亘り編集委員会が一生涯懸命に知恵を出して企画した結果、今年も盛りだくさんの内容をご紹介させていただくことになりました。読者の皆様に少しでもお役にたてばと願ってやみません。

最後になりますが、ご多忙にも関わらずご寄稿いただきました執筆者の皆様、意見交換の場で貴重なご意見をいただきました国土交通省中部地方整備局の皆様、さらには、本機関誌発刊にご尽力をいただきました全ての皆様に対し、心より御礼申し上げます。

今後も皆様方から愛読される機関誌『土と岩』となるよう企画・制作してまいりますので、ご指導、ご愛顧をお願い申し上げます。

また、校了直前に熊本から大変大きな地震発生のニュースが飛び込んできました。今回は神戸大震災に匹敵する直下型の大地震で、この編集後記を書いている時も余震のニュースが続いています。犠牲になられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げて、編集後記と致します。

編集委員会



一般社団法人 全国地質調査業協会連合会

中部地質調査業協会「土と岩」No.64

2016年5月1日発行

発行： 中部地質調査業協会
〒461-0004
名古屋市東区葵三丁目 25 番 20 号
ニューコーポ千種橋 403 号
TEL 052-937-4606
FAX 052-937-4607

企画： 株式会社建通新聞社 中部支社
印刷： 株式会社松原写真製版所